

新まち通信

歩き続けるとき

「やらざネット」の職員が 日本装飾美術学校を訪問しました (株)ニチレイ

新しいまちづくり係をサポートし、まちづくりに必要な助言をいただくための組織「やらざネット」のメンバーが、地元のことを知ることでもちづくりのきっかけを探そうと、町内の施設を訪問しました。

今回訪問したのは、松目にあります日本装飾美術学校とご事にあります(株)ニチレイです。

日本装飾美術学校では

日本装飾美術学校を訪れると、小黒校長先生が玄関で出迎えてくださいました。広々としたロビーに入るとさりげなく生徒の作品が展示されていて、ひとつひとつ個性ある作品に思わず見入ってしまいました。

壁画の工房では、富士見保育園の玄関に飾る作品を手がけている男子生徒に出会いました。その生徒はなんと、直接役場に出向き「自分の作品をどうしても飾らせて欲しい」と交渉したのだそうです。これにはメンバーも驚きました。それと同時に、自ら地域に出

向き地域で活動を始めている生徒をすばらしく思いました。

また、校長先生がそんな生徒をとても誇りに思い、温かく見守っている様子が、お話を伺っていてひひしと伝わってきました。



この壁画は学校で学んでいる生徒をモチーフにして在校生が卒業記念に描いたものです。

ガラス工房では寒くなり始めた外とは違い、ポイラーがゴーゴーと音を立てて燃えるなかで、女子生徒達が汗を掻きながら作品作りをしていました。たのしそうに作品を作る若者の姿を、うらやましそうに見ている職員の顔が非常に印象的でした。

校長先生は最後に、学校のペランダの壁の一部に描かれた壁画を案内してくださいました。それはこの学校を表現した生徒たちの作品でした。毎年、生徒たちに好きな場所を選んでもらい、壁画を描かせているのだそうです。小黒校長先生は「つまり、この学校の建物は今現在も未完成なのです。」と話しておられました。さすが芸術を学ぶ学校、その発想のユニークさに驚かされました。

(株)ニチレイでは

(株)ニチレイは冷凍食品で有名ですが、新たな事業展開としてフラワー事業部が彗星ランの栽培を行っています。まだまだなじみの薄い彗星ランですが、原産地は中南米のペルーで、しかも標高が千五百メートル以上の高山地帯だそうで、ランとして一般的に有名な胡蝶蘭やカトレア、シンビジウム

とは性格が正反対で、寒さに比較的強く、湿気を嫌うことから八ヶ岳の南麓、標高1千メートルの富士見町の自然環境が非常に栽培に適していることから、乙事を専業地として選ばれたそうです。

約1haの敷地内にあるハウス内ではクロロンにより発芽した2年目の小さな苗から6〜7年目の鉢植えされたランが可動式の棚に陳列され栽培されています。ランは成熟するまでに約7年掛かると聞いて、訪れたメンバーから思わずため息が漏れていました。国内ではまだ栽培が始まったばかりというところもあって、既に富士見町が栽培面積・生産量日本一であることもわかりました。

施設内で働いておられる方々はほとんどが地元のご婦人で、施設の責任者である渡辺部長さんは、「これから出荷の最盛期に向けて更にパートを募集したいので、町も協力して欲しい。また、お知り合いや農家の方でランの栽培に興味のある方がいたらぜひ紹介して欲しい。」と話しておられました。富士見町に住み富士見町で働く職員でも、意外と地域のご事は知らないものです。

今まで以上に外に足を運び、町のことを詳しく知る努力が、まちづくりを進めるうえで必ず必要です。新しいまちづくり係では、引き続き地域に足を運ぶ作業を地道に進めます。



ニチレイで栽培している『彗星ラン』

町民の皆様で、日本装飾美術学校と(株)ニチレイを見学されたい方は、新しいまちづくり係まで、ご連絡ください。

また、このコーナーに関する「ご意見ご感想」をお寄せください。

問い合わせ
総務課新しいまちづくり係
TEL 9328 (有)9328
FAX 62・4481
E-mail: soundu@town.fujimi.agano.jp